

# 家族の経済学－出生と教育の経済モデル

指導教員

## 1 基本モデル

効用関数

$$u(c, n) = \log c + \beta \log n \quad (1)$$

$c$  消費

$n$  子どもの数 (出生率)

$\beta > 0$  子どもの数への選好の強さを表すパラメータ (定数)

予算制約式

$$wl = c + p_n n \quad (2)$$

$w$  賃金率 (定数)

$l$  労働時間

$p_n$  養育財の価格 (定数)

時間制約式

$$1 = l + \phi n \quad (3)$$

$0 < \phi < 1$  1人あたり養育時間 (定数)

(2), (3) 式で労働時間  $l$  を消去すると,

$$w = c + (w\phi + p_n)n \quad (4)$$

(4) 式は、子どもの価格が、(i) 養育費  $p_n$  と、(ii) 養育の機会費用 (養育のために失われた賃金所得)  $w\phi$  の合計であることを意味している。

家計の最適化問題

$$\max_{c, n} u = \log c + \beta \log n \quad \text{subject to } w = c + (w\phi + p_n)n$$

ラグランジュ関数を,

$$L = \log c + \beta \log n + \lambda [w - c - (w\phi + p_n)n]$$

とおく ( $\lambda$  はラグランジュ乗数) .

1 階の条件は,

$$\frac{\partial L}{\partial c} = \frac{1}{c} - \lambda = 0 \quad (5)$$

$$\frac{\partial L}{\partial n} = \frac{\beta}{n} - \lambda(w\phi + p_n) = 0 \quad (6)$$

$$\frac{\partial L}{\partial \lambda} = w - c - (w\phi + p_n)n = 0 \quad (7)$$

(5)-(7) 式より, 最適消費, 最適出生率が得られる.

$$c^* = \frac{w}{1 + \beta} \quad (8)$$

$$n^* = \frac{\beta}{1 + \beta} \frac{w}{w\phi + p_n} \quad (9)$$

問題 1 (8), (9) 式を導出せよ.

比較静学

(9) 式より,

$$\frac{\partial n^*}{\partial w} > 0 \quad (10.1)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial \phi} < 0 \quad (10.2)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial p_n} < 0 \quad (10.3)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial \beta} > 0 \quad (10.4)$$

が得られる. 出生率が上昇するのは, (i) 賃金率  $w$  が高いとき, (ii) 1 人あたり養育時間  $\phi$  が少ないとき, (iii) 養育財価格  $p_n$  が低いとき, (iv) 子どもの数への選好  $\beta$  が強いとき, である.

問題 2 (10.1)-(10.4) 式を確認せよ.

## 2 子どもの数と質

効用関数

$$u(c, n, h) = \log c + \beta \log(nh) \quad (11)$$

$h$  子どもの人的資本

$\beta > 0$  子どもの人的資本の総和に対する選好の強さを表すパラメータ (定数)

予算制約式

$$wl = c + p_n n + p_e n e \quad (12)$$

$e$  1 人あたり教育財支出

$p_e$  教育財の価格 (定数)

時間制約式

$$1 = l + \phi n \quad (13)$$

人的資本形成

$$h = Ae^\alpha \quad (14)$$

$A > 0$  (定数),  $0 < \alpha < 1$  (定数)

(12), (13) 式で  $l$  を消去すると,

$$w = c + (w\phi + p_n)n + p_e n e \quad (15)$$

が得られる,

(14) 式を (11) 式に代入すると,

$$u(c, n, h) = \log c + \beta \log n + \alpha \beta \log e \quad (16)$$

が得られる.

問題 3 (15), (16) 式を導出せよ.

家計の最適化問題

ラグランジュ関数を,

$$L = \log c + \beta \log n + \alpha \beta \log e + \lambda [w - c - (w\phi + p_n)n - p_e n e]$$

とおくと, 1 階の条件は,

$$\frac{\partial L}{\partial c} = \frac{1}{c} - \lambda = 0 \quad (17)$$

$$\frac{\partial L}{\partial n} = \frac{\beta}{n} - \lambda(w\phi + p_n + p_e e) = 0 \quad (18)$$

$$\frac{\partial L}{\partial e} = \frac{\alpha \beta}{e} - \lambda p_e n = 0 \quad (19)$$

$$\frac{\partial L}{\partial \lambda} = w - c - (w\phi + p_n)n - p_e n e = 0 \quad (20)$$

まず, (17), (18), (20) 式から,

$$c^* = \frac{1}{\lambda} = \frac{w}{1 + \beta} \quad (21)$$

が得られる.

問題 4 (21) 式を導出せよ.

次に, (18), (19), (21) 式から,

$$n^* = \frac{\beta(1 - \alpha)}{1 + \beta} \frac{w}{w\phi + p_n} \quad (22)$$

$$e^* = \frac{\alpha}{1 - \alpha} \frac{w\phi + p_n}{p_e} \quad (23)$$

が得られる.

問題 5 (22), (23) 式を導出せよ.

## 2.1 比較静学

### 2.1.1 出生率

(22) 式より,

$$\frac{\partial n^*}{\partial w} > 0 \quad (24.1)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial \phi} < 0 \quad (24.2)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial p_n} < 0 \quad (24.3)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial \beta} > 0 \quad (24.4)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial \alpha} < 0 \quad (24.5)$$

$$\frac{\partial n^*}{\partial p_e} = 0 \quad (24.6)$$

が成立する. 出生率が上昇するのは, (i) 賃金率  $w$  が高いとき, (ii) 1人あたり養育時間  $\phi$  が少ないとき, (iii) 養育財価格  $p_n$  が低いとき, (iv) 子どもの数への選好  $\beta$  が強いとき, そして, (v) 人的資本形成における教育効果  $\alpha$  が小さいとき, である. 教育財価格  $p_e$  は出生率に影響しない.

問題 6 (24.1)-(24.6) 式を確認せよ.

### 2.1.2 教育

(23) 式より,

$$\frac{\partial e^*}{\partial w} > 0 \quad (25.1)$$

$$\frac{\partial e^*}{\partial \phi} > 0 \quad (25.2)$$

$$\frac{\partial e^*}{\partial p_n} > 0 \quad (25.3)$$

$$\frac{\partial e^*}{\partial p_e} < 0 \quad (25.4)$$

$$\frac{\partial e^*}{\partial \alpha} > 0 \quad (25.5)$$

$$\frac{\partial e^*}{\partial \beta} = 0 \quad (25.6)$$

が成立する. 子ども1人あたりの教育支出が増加するのは, (i) 賃金率  $w$  が高いとき, (ii) 1人あたり養育時間  $\phi$  が多いとき, (iii) 養育財価格  $p_n$  が高いとき, (iv) 教育財価格  $p_e$  が低いとき, (v) 人的資本形成における教育効果  $\alpha$  が大きいとき, である. なお, 子どもの数への選好  $\beta$  は教育費に影響しない.

問題 7 (25.1)-(25.6) 式を確認せよ.

### 2.1.3 子どもの量と質のトレードオフ

(22), (23) 式より,

$$n^* e^* = \frac{\beta \alpha w}{1 + \beta p_e} \quad (26)$$

が得られる。

(26) 式は,  $\alpha, \beta$ , そして, 実質教育費  $p_e/w$  が一定であるとき, 1人あたり教育費  $e^*$  が上昇するような環境変化のもとで, 出生率  $n^*$  が低下することを意味している。つまり, 出生率低下の要因の1つとして, 1人あたり教育費の上昇を挙げることができる。

**問題 8** 出生率と1人あたり教育費に関する散布図を作成し, 右下がりの関係があるかどうかを調べよ。